三瓶東地区
事前復興まちづくり計画

令和５年３月

事前復興まちづくり計画検討
三瓶東地区　地域ワークショップ

― 目　次 ―

第１章 三瓶東地区事前復興まちづくり計画の位置づけ.....1
　第１節 本計画の目的.....1
　第２節 対象範囲.....1
　第３節 事前復興まちづくり計画検討地域ワークショップ.....2
第２章 地区の現状と被害想定.....4
　第１節 地区の現状等.....4
　第２節 被害想定.....11
第３章 地域ワークショップの成果.....14
　第１節 地域の宝.....14
　第２節 生活再建シナリオ.....20
　第３節 復興まちづくりの課題.....22
　第４節 復興の目標.....23
　第５節 復興まちづくりの方針.....24
　第６節 復興まちづくりイメージ図.....25
第４章 実現に向けた取り組み.....29
　第１節 アクションプラン.....29
　第２節 がんばる宣言.....34
　第３節 ＰＤＣＡサイクルの運用.....38

第1章　三瓶東地区事前復興まちづくり計画の位置づけ

第1節　本計画の目的

本計画は、令和５年３月に策定された「事前復興計画　事前復興まちづくり計画編」に基づき、三瓶東地区の将来像を形にしたものです。

愛媛大学の協力のもと、三瓶東地区の住民、中学校や高校の生徒が参加した「事前復興まちづくり計画検討　地域ワークショップ」を５回開催し、議論した成果をとりまとめて作成しました。

事前復興まちづくりを進めていくには、誰が、いつ、どのように進めていくかが重要になります。地域住民や各種団体、行政等が、それぞれの立場で出来ることを模索し、より良い地域の実現に向けた道標となる役割を担う計画となります。

第2節　対象範囲

本計画では、三瓶東地区を対象区域とします。

図 1　対象区域

第3節　事前復興まちづくり計画検討地域ワークショップ

(1) 開催経緯

事前復興まちづくり計画検討 三瓶東地区 地域ワークショップの開催経緯を以下に示します。

回・開催日	主な内容	参加人数
第１回ＷＳ (R4.6.21)	・ メインテーマ：命を守る ・ サブテーマ：自宅・地域における災害リスクを知る ・ グループワーク①：地域の宝を確認する ・ 話題提供：地区の被害想定と復興 ・ グループワーク②：地域の課題を考える	52 人
第２回ＷＳ (R4.7.29)	・ メインテーマ：命を守る ・ サブテーマ：地域に必要な対策を考える ・ グループワーク①：避難場所・避難経路・取組みを共有する ・ グループワーク②：地域に必要な対策を考える ・ グループワーク③：次回 WS のまちあるきルートを考える	35 人
第３回ＷＳ (R4.8.21)	・ メインテーマ：生活再建・事前復興まちづくり ・ サブテーマ：地域の資源を共有する ・ まち歩き・グループワーク：地域の宝を確認する	28 人
第４回ＷＳ (R4.12.12)	・ メインテーマ：生活再建・事前復興まちづくり ・ サブテーマ：応急仮設住宅等での生活、住宅再建を考える ・ グループワーク①：命が助かった後の行動等を想像する ・ グループワーク②：集落の再建方法（住まいの場）等を考える	36 人
第５回ＷＳ (R5.2.7)	・ メインテーマ：生活再建・事前復興まちづくり ・ サブテーマ：事前復興まちづくりについて考える ・ グループワーク①：事前復興まちづくりイメージを考える ・ グループワーク②：実現に向けたプロセスを検討する	38 人

(2) 参加者・支援者

事前復興まちづくり計画検討 三瓶東地区 地域ワークショップの参加者・支援者を以下に示します。

参加者		
三瓶東地区の住民（自主防災組織、消防団、防災士等）		35 名
中学生・高校生		22 名
支援者		
松村　暢彦	愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 教授	
森脇　亮	愛媛大学 理工学研究科 生産環境工学専攻 教授	
渡邊　敬逸	愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 准教授	
羽鳥　剛史	愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 准教授	
藤森　祥文	愛媛大学 理工学研究科 生産環境工学専攻 助教	
愛媛大学　学生		28 名

第2章　地区の現状と被害想定

第1節　地区の現状等

三瓶東地区のまちづくり等の現状を踏まえ、事前復興まちづくりに資する現状と課題を分析するため、三瓶東地区の現状等を整理します。

（1）人口

2060 年までの人口を、現在の状況のまま進んだ場合の中位推計として示すと、2019 年時点から約 20 年後には 3,500 人台と約半数になっている可能性があります。

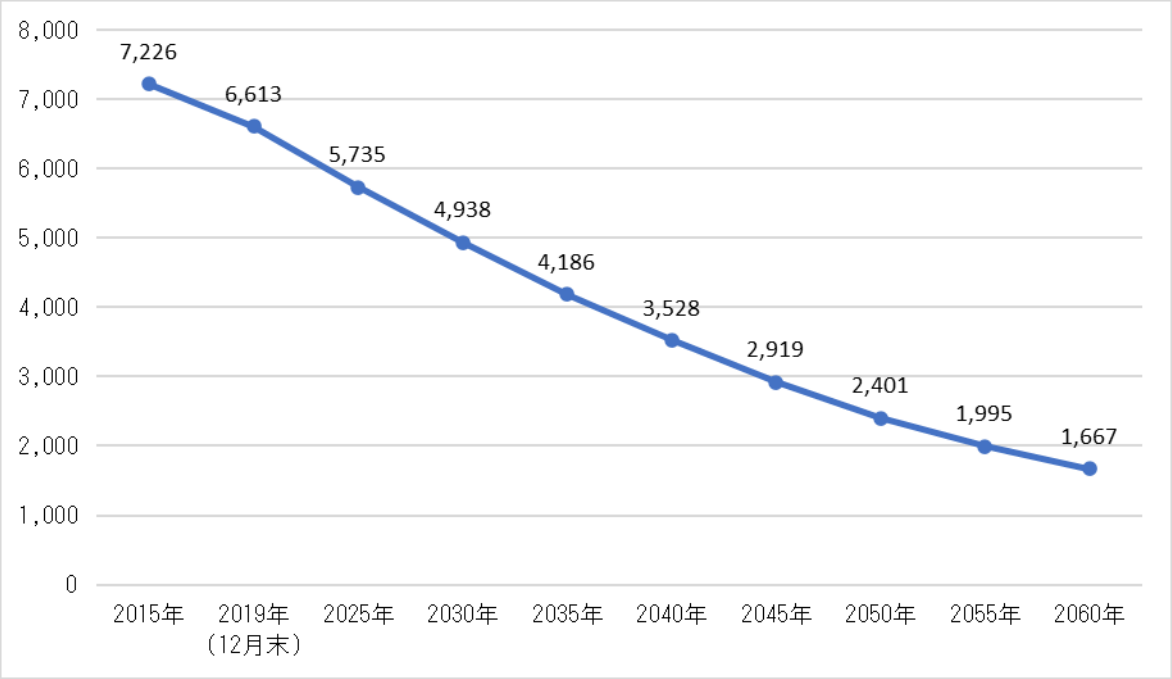


図 2　三瓶地域の人口推移（中位水位）

出典：第 2 次西予市総合計画,R4.3

(2) 産業

三瓶地域の産業別就業者数は、第 1 次産業が約 21%、第 2 次産業は約 19%、第 3 次産業は約 60%となっています。

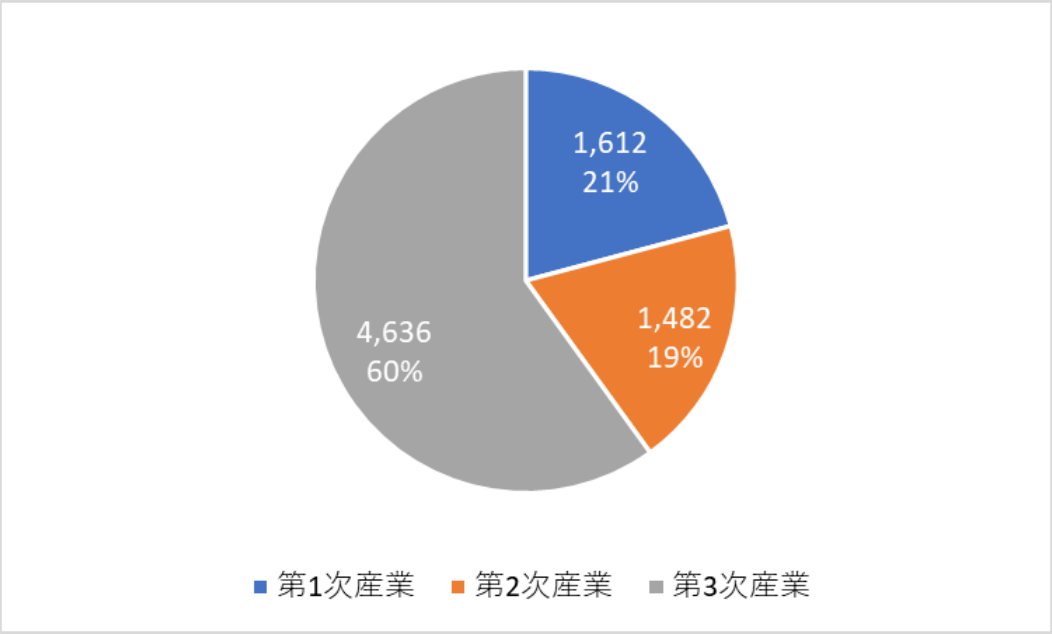


図 3　産業別就業者数（令和 2 年時点）

出典：令和 2 年度国勢調査結果

(3) 土地利用

三瓶東地区の土地利用は、三瓶支所の西側に商業系の用途地域が立地しており、生活サービス施設が立地しています。海岸沿いおよび河川沿いは準工業地域に指定されており、2 つの河川沿いの内陸側に住居系の用途地域が設定されています。

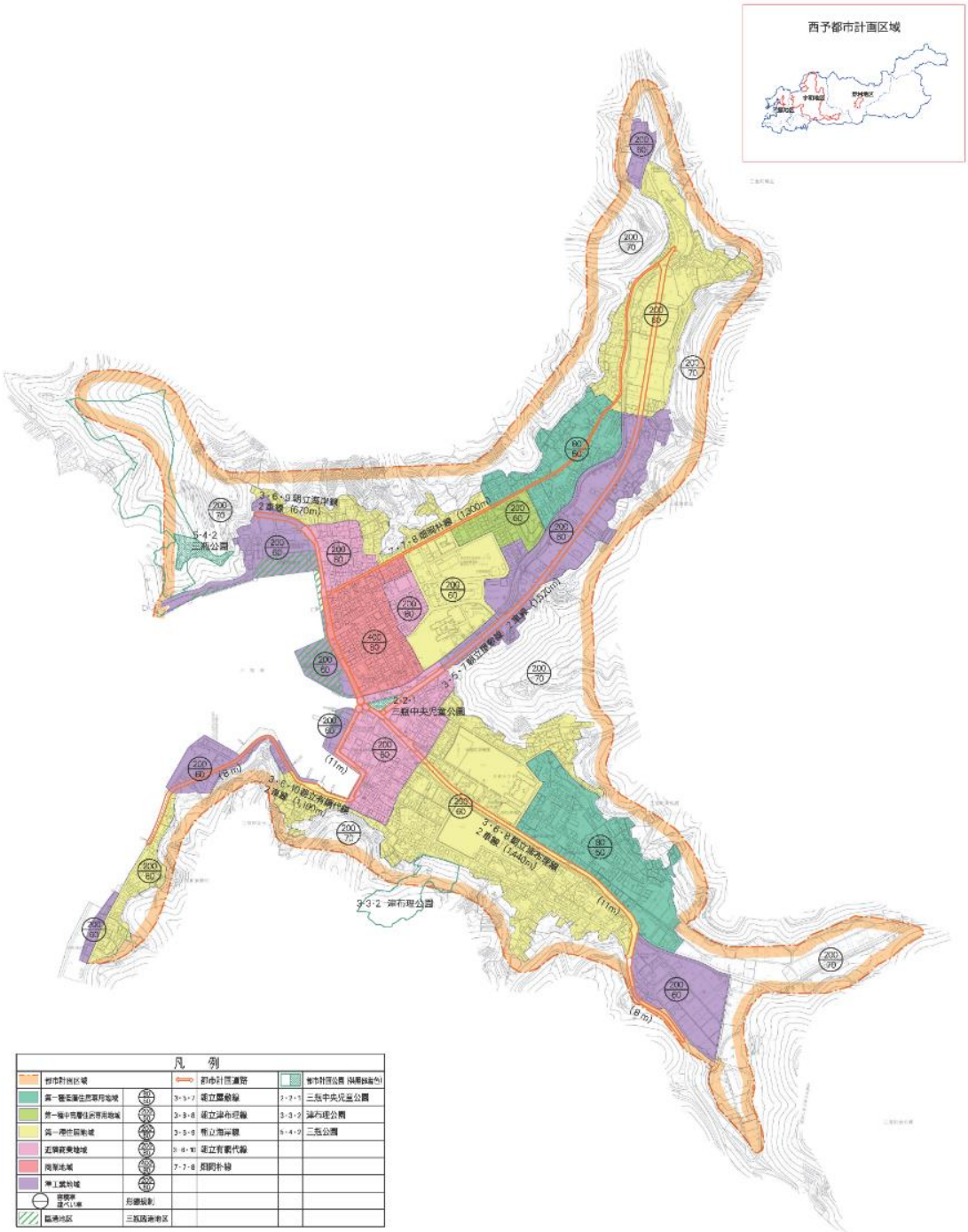


図 4　用途地域

出典：西予市 HP より

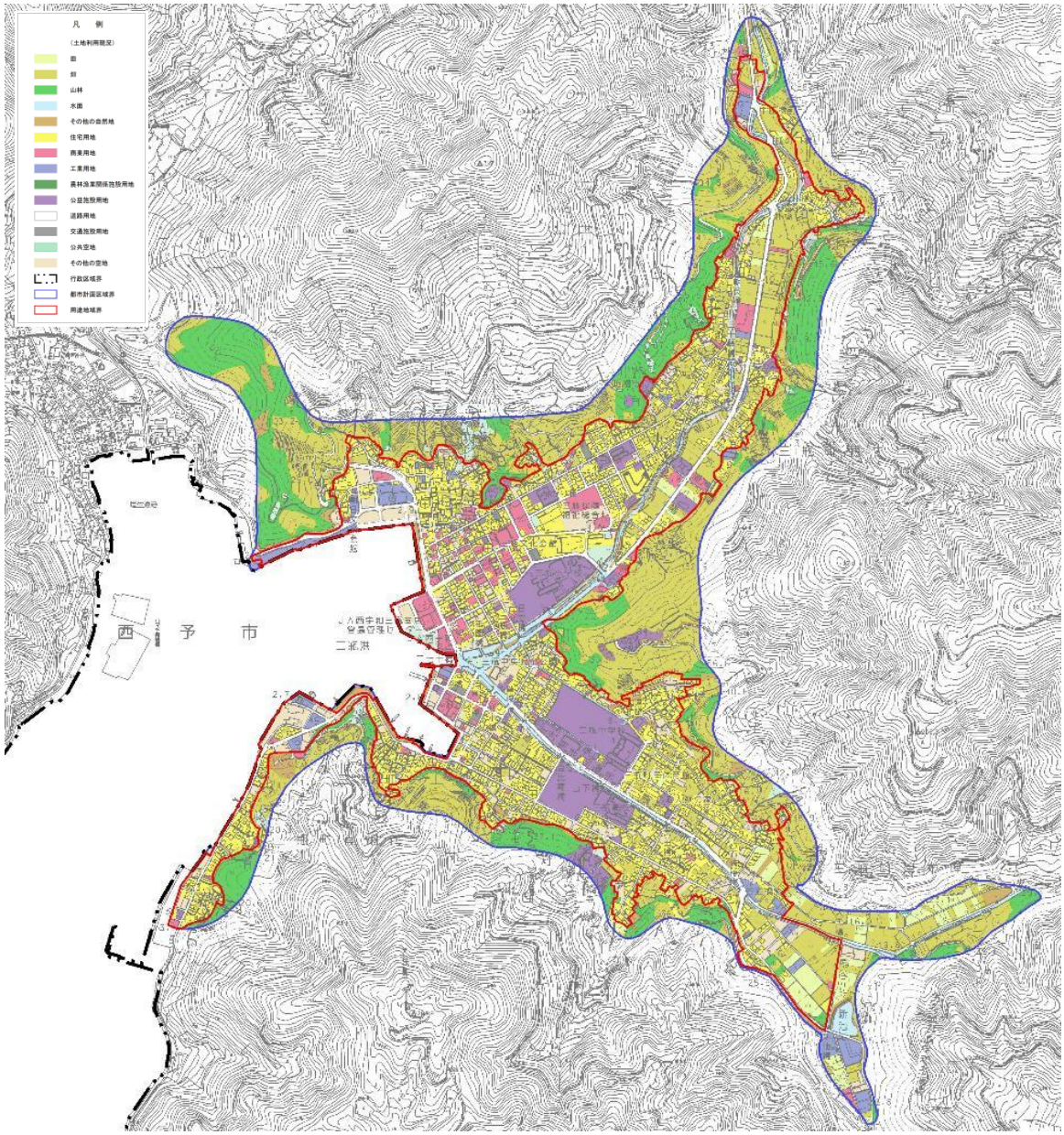


図 5　土地利用現況図

出典：西予都市計画区域基礎調査,H25

(4) 学校・医療・福祉施設

学校は、三瓶小学校、三瓶中学校、宇和高等学校三瓶分校の 3 校があります。また、福祉施設、医療機関については、三瓶支所の近隣に多く位置しています。

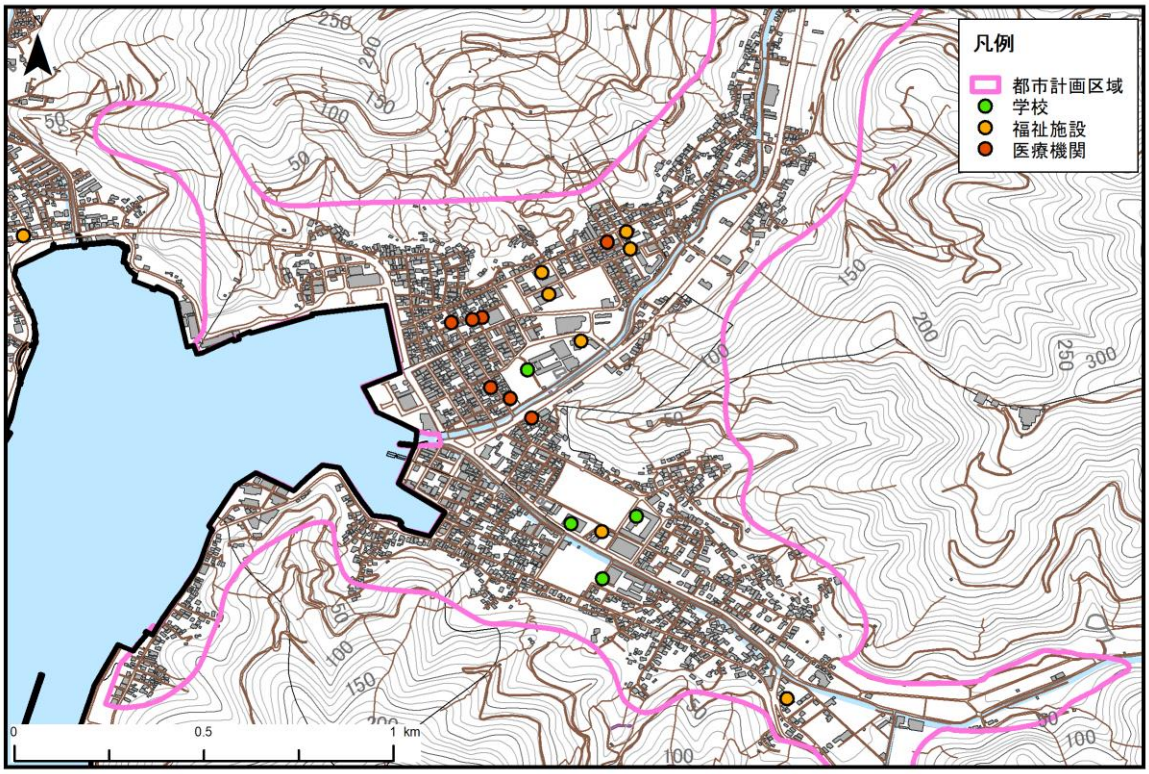
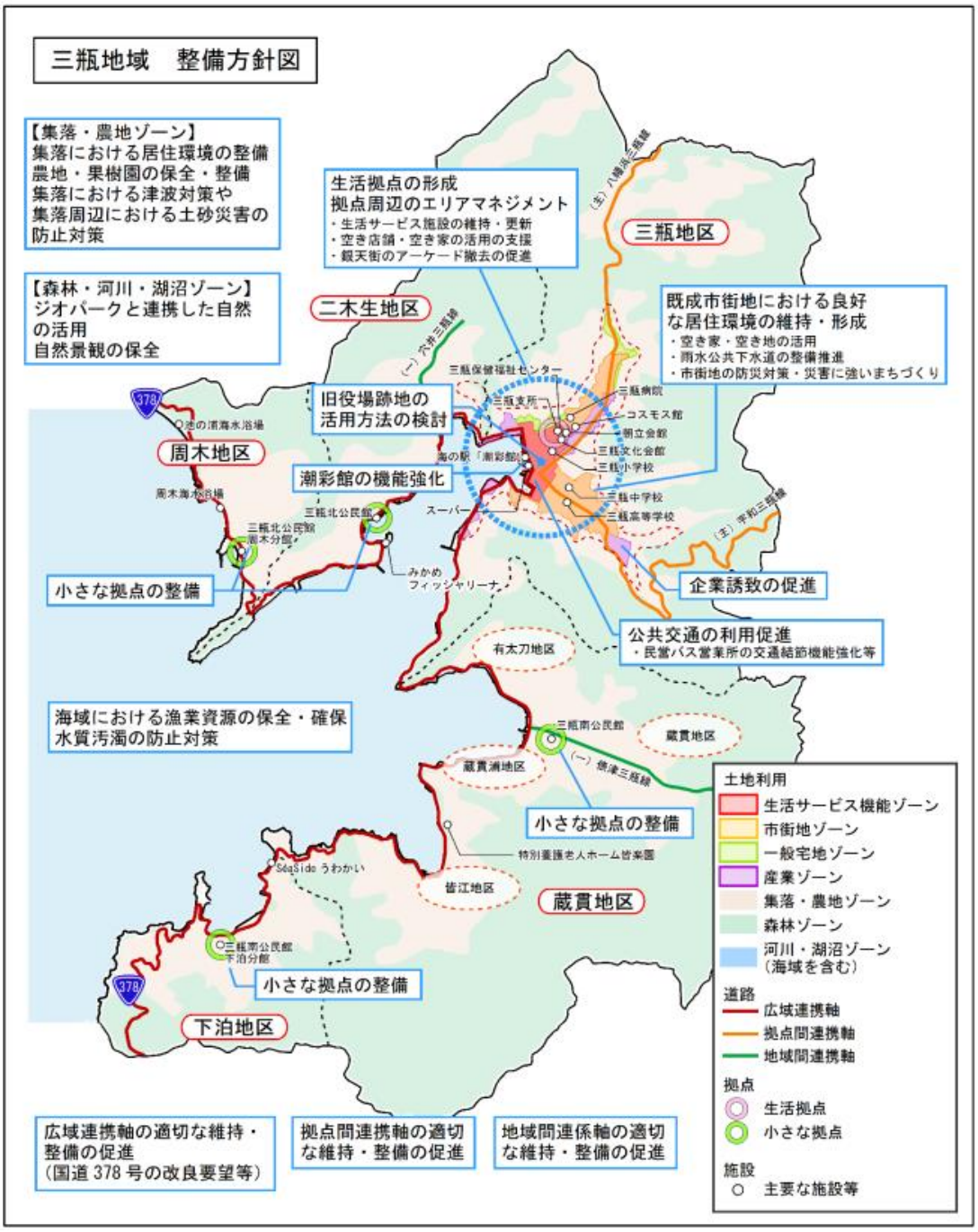


図 6　学校・医療・福祉施設

(5) 都市計画マスタープラン

「西予市都市計画マスタープラン」において、三瓶東地区は、三瓶地域内の生活拠点として位置づけられています。また、既成市街地における良好な住居環境の維持・形成や企業誘致の促進、公共交通の利用促進等が方針として示されています。



※蔵貫地区は有太刀、蔵貫浦、蔵貫、皆江の４地区で構成しています。
※二木生地区は垣生、二及、長早の３地区で構成しています。

図 7　三瓶地域の整備方針

出典：西予市都市計画マスタープラン,R2.9

（6）立地適正化計画

「西予市立地適正化計画」において、三瓶地域では、三瓶支所周辺が三瓶生活拠点地区に設定されています。三瓶地域の生活拠点として、既存の生活サービス施設（医療施設、福祉施設、子育て支援施設、商業施設、教育文化施設、金融施設）の維持、機能増進を図ることとされています。

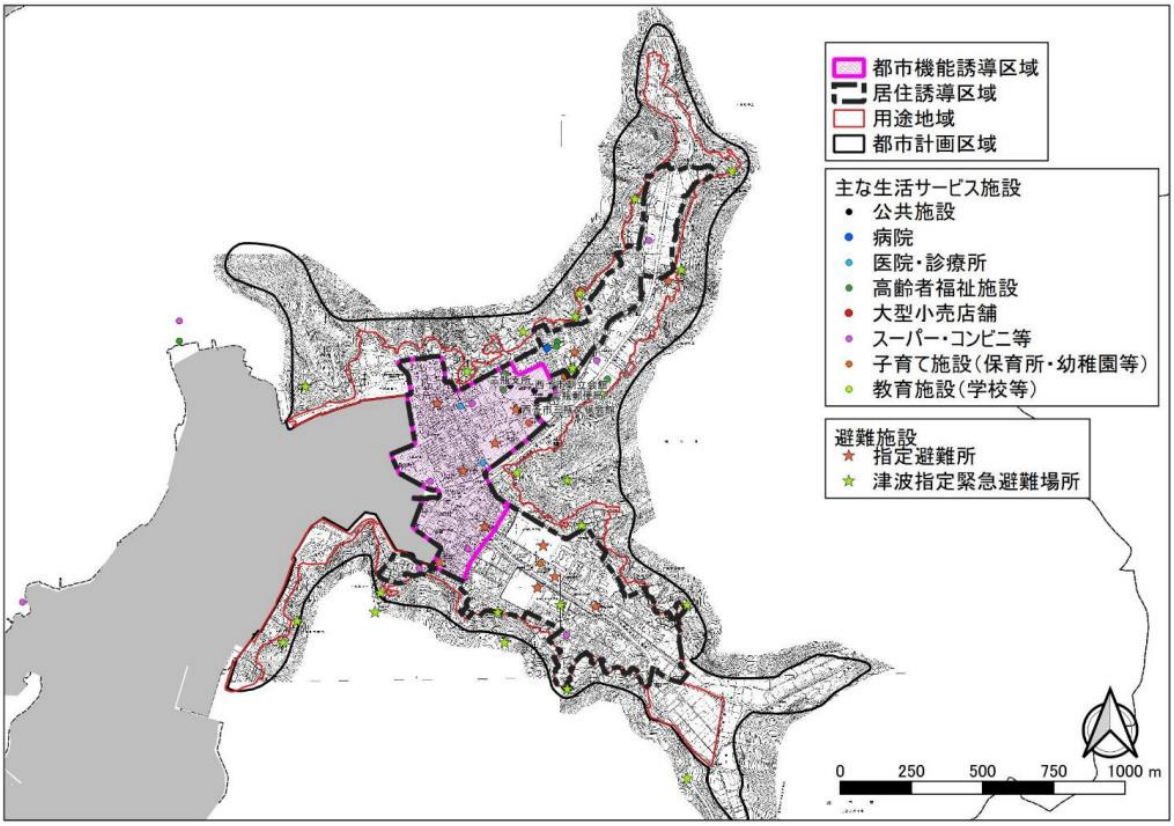


図 8　三瓶地域の誘導区域の区域図

出典：西予市立地適正化計画,R2.9

第2節　被害想定

本計画の対象災害は、本市に甚大な被害が想定されている、愛媛県地震被害想定調査結果に基づく南海トラフ巨大地震（最大クラスの地震・津波被害）とします。被害想定を以下に整理します。

（1）地震

「愛媛県地震被害想定調査」（平成 25 年 12 月）によると、南海トラフ巨大地震が発生した際には、三瓶東地区では、最大震度６強の揺れが想定されています。

三瓶支所、三瓶小学校、三瓶中学校、医療機関、福祉施設の位置で震度６強の揺れが想定されています。

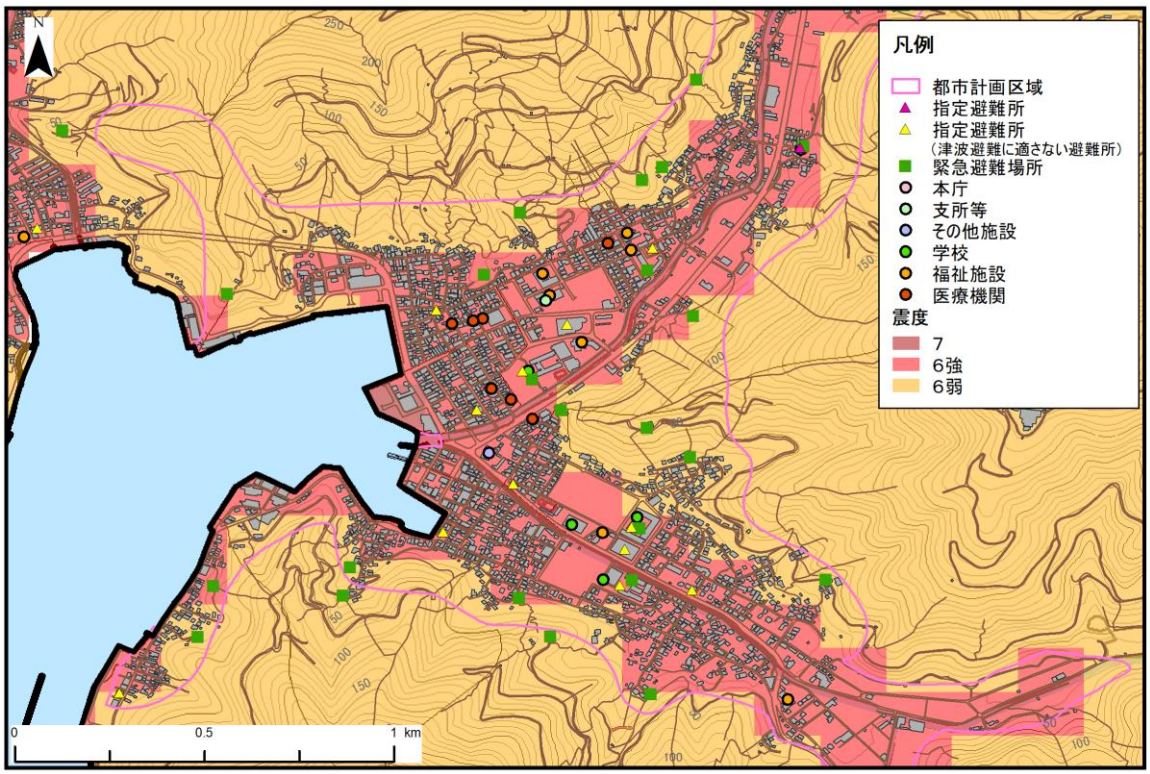


図 9　震度分布図

出典：愛媛県地震被害想定調査,H25.12 をもとに作製

(2) 津波浸水想定

「愛媛県地震被害想定調査」（平成 25 年 12 月）によると、南海トラフ巨大地震が発生した場合、三瓶東地域では、津波により 5.0m 以上の浸水が想定されています。

三瓶支所、三瓶小学校、三瓶中学校、医療機関、福祉施設の位置で 5.0mから 10.0mの津波浸水が想定されています。

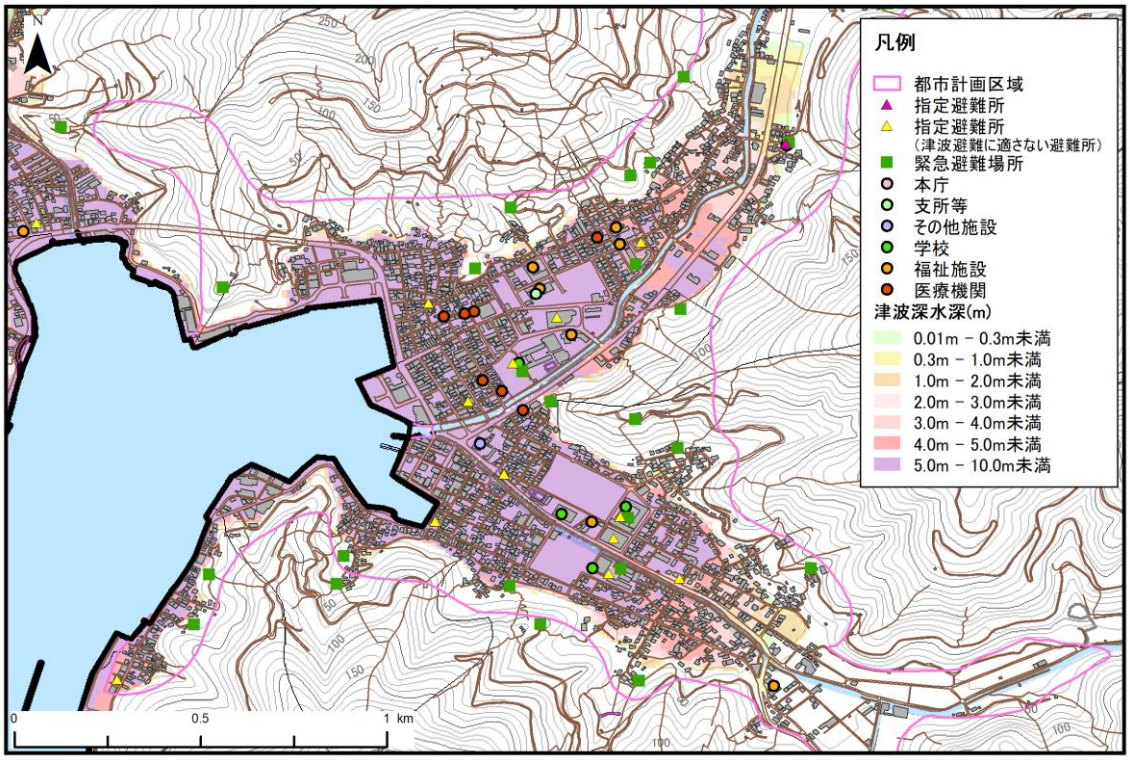


図 10　津波浸水想定図

出典：愛媛県地震被害想定調査,H25.12 をもとに作製

(3) 土砂災害（特別）警戒区域

土砂災害（特別）警戒区域は、市街地を取り囲むように指定されています。

三瓶支所、三瓶中学校、一部の福祉施設の敷地に土砂災害警戒区域が指定されています。

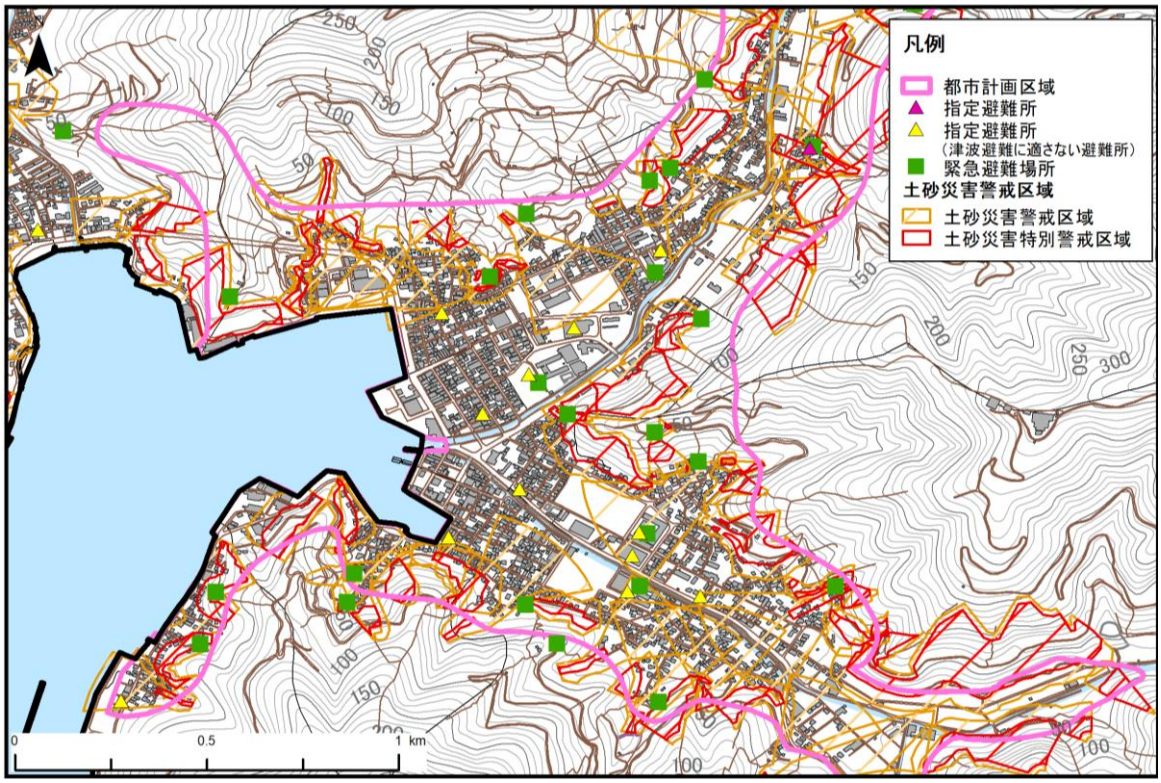


図 11　土砂災害（特別）警戒区域図

出典：国土数値情報

第3章　地域ワークショップの成果

第1節　地域の宝

第 1 回 事前復興まちづくり計画検討 三瓶東地区 地域ワークショップでは、三瓶東地区の地域の宝について議論しました。その成果を以下に示します。

地区内に魅力や思い出が詰まった場所が広く分布しています。

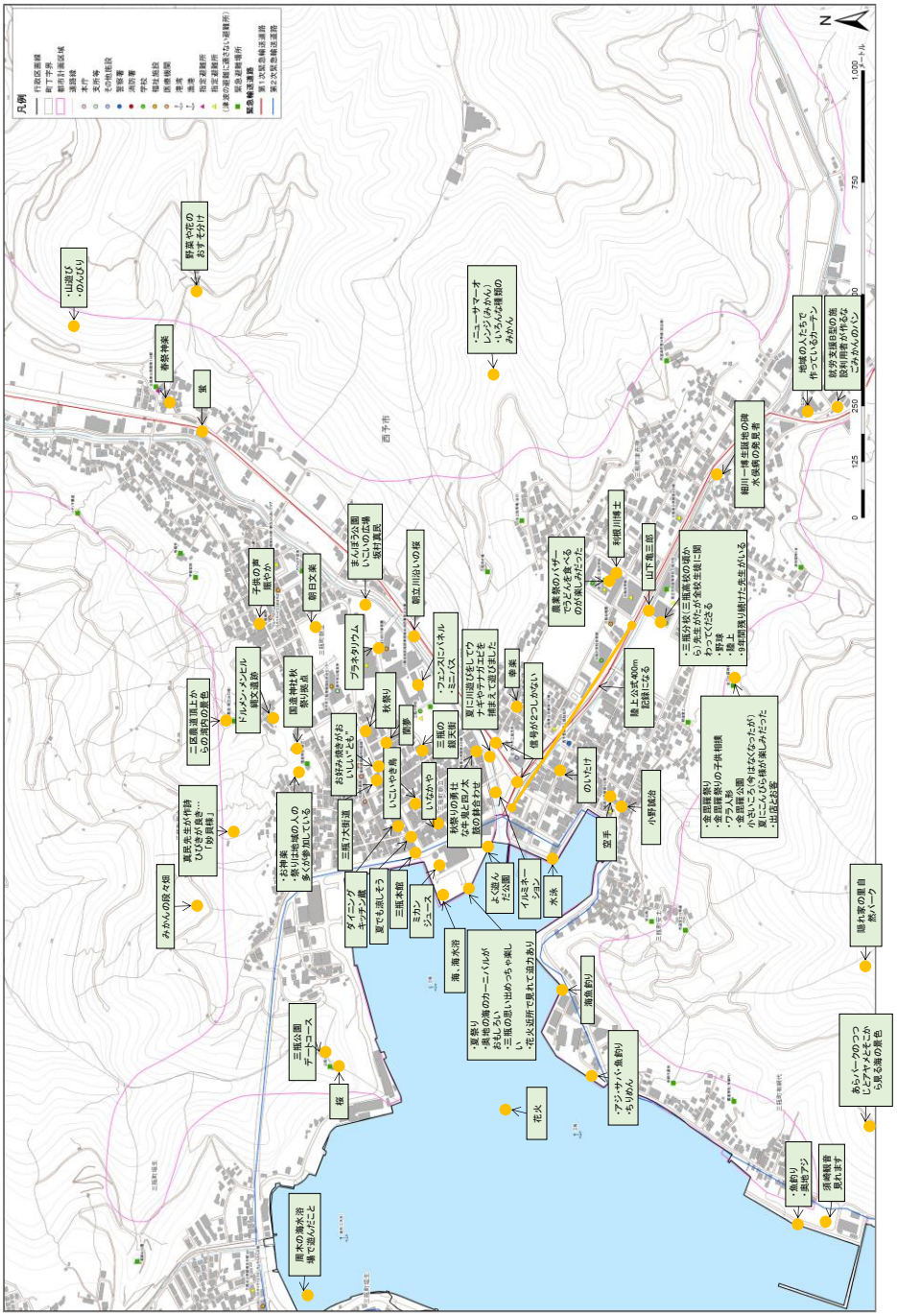


図 12　第 1 回 WS のふりかえり　地域の宝を共有する
（三瓶町の良いところ、好きなところ）

また、第 3 回 事前復興まちづくり計画検討 三瓶東地区 地域ワークショップでは、三瓶東地区のまちあるきを行い、●三瓶の良いところ、●地域資源（避難関連）、●地域資源（復旧復興関連）、●地域資源（その他）についてとりまとめました。

【1 班のとりまとめ結果】

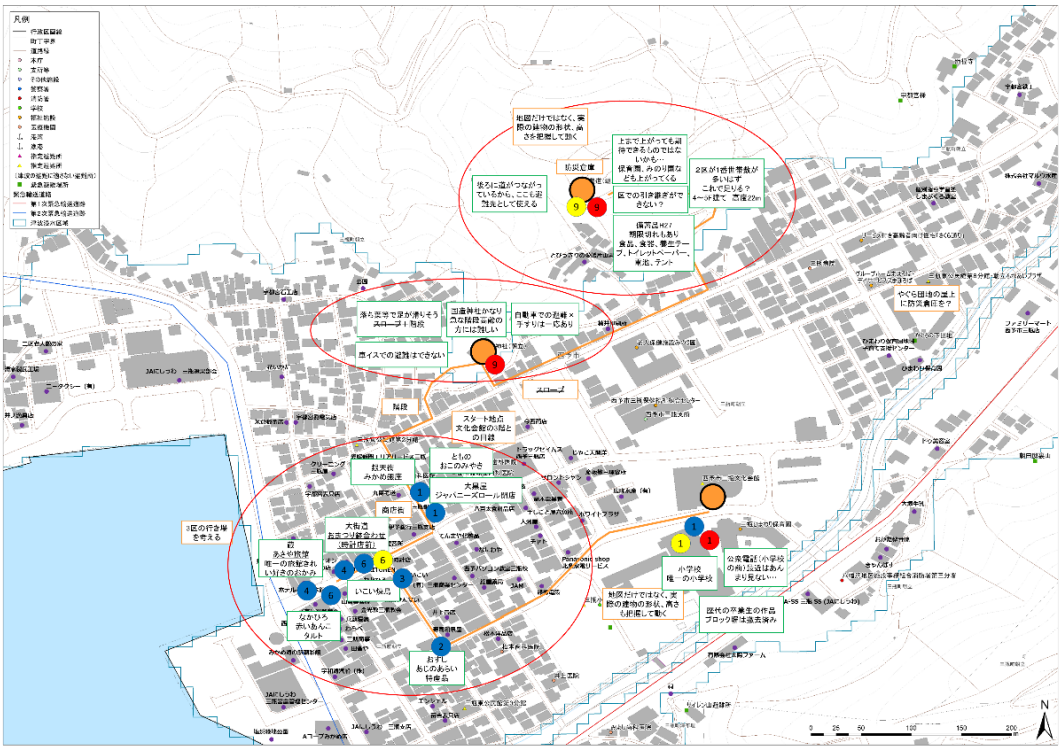


図 13　まちあるきで得られたこと【1 班】

【2 班のとりまとめ結果】

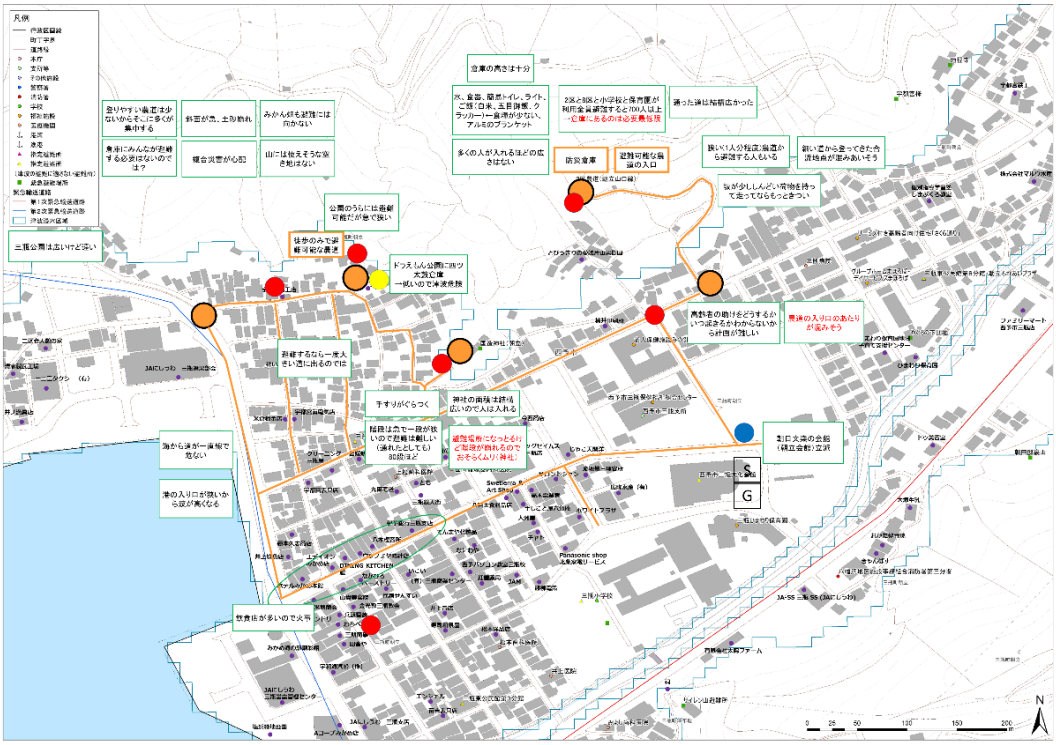


図 14　まちあるきで得られたこと【2 班】

【3 班のとりまとめ結果】

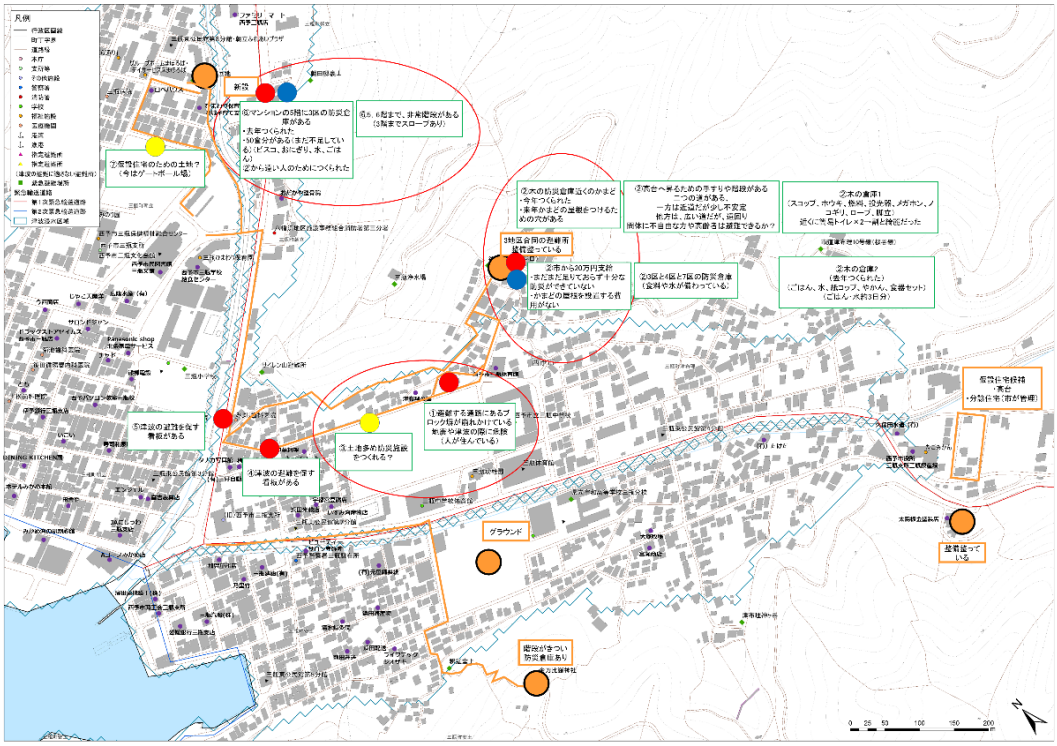


図 15　まちあるきで得られたこと【3 班】

【4 班のとりまとめ結果】

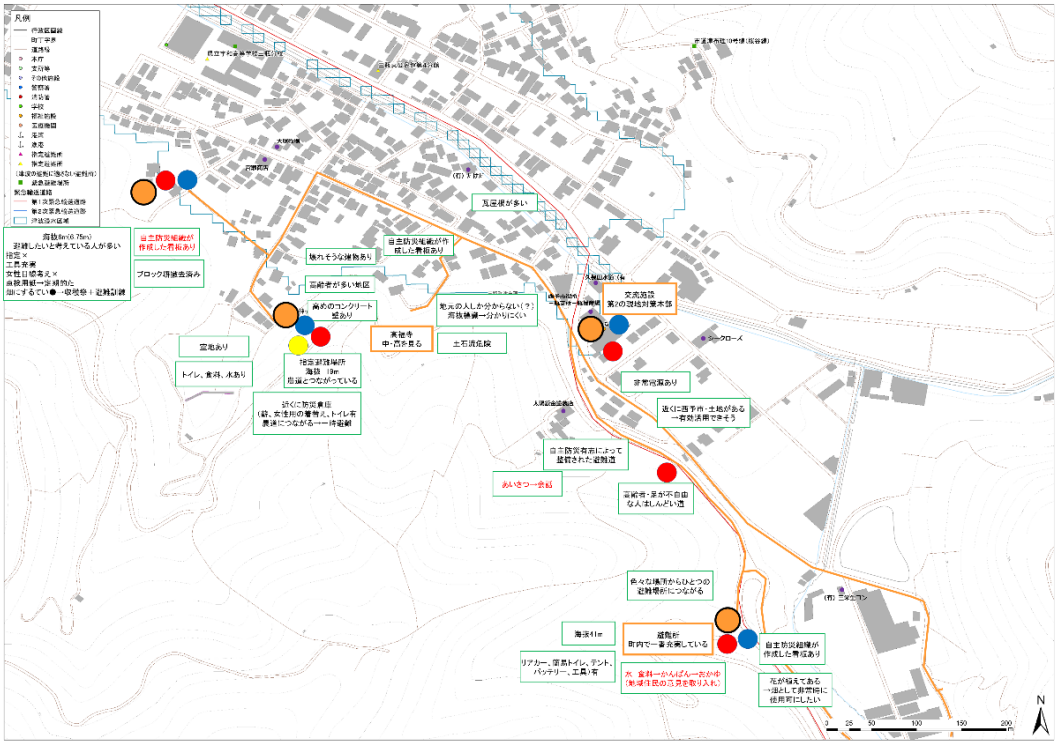


図 16　まちあるきで得られたこと【4 班】

【5 班のとりまとめ結果】

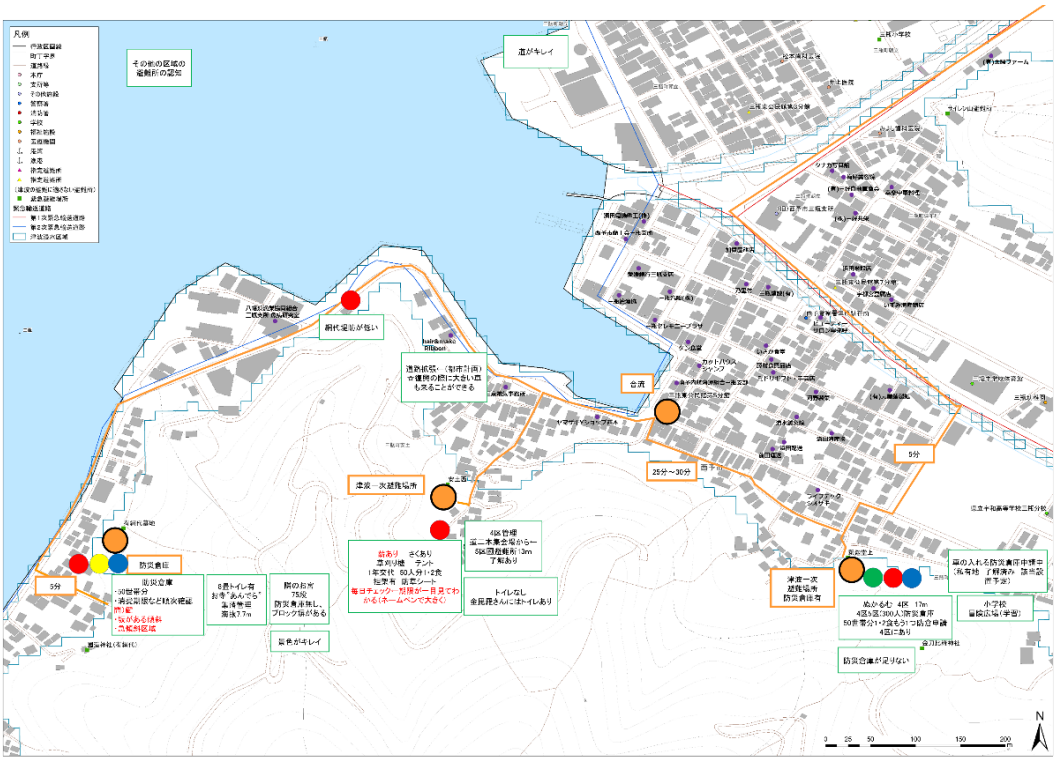


図 17　まちあるきで得られたこと【5 班】

【6 班のとりまとめ結果】

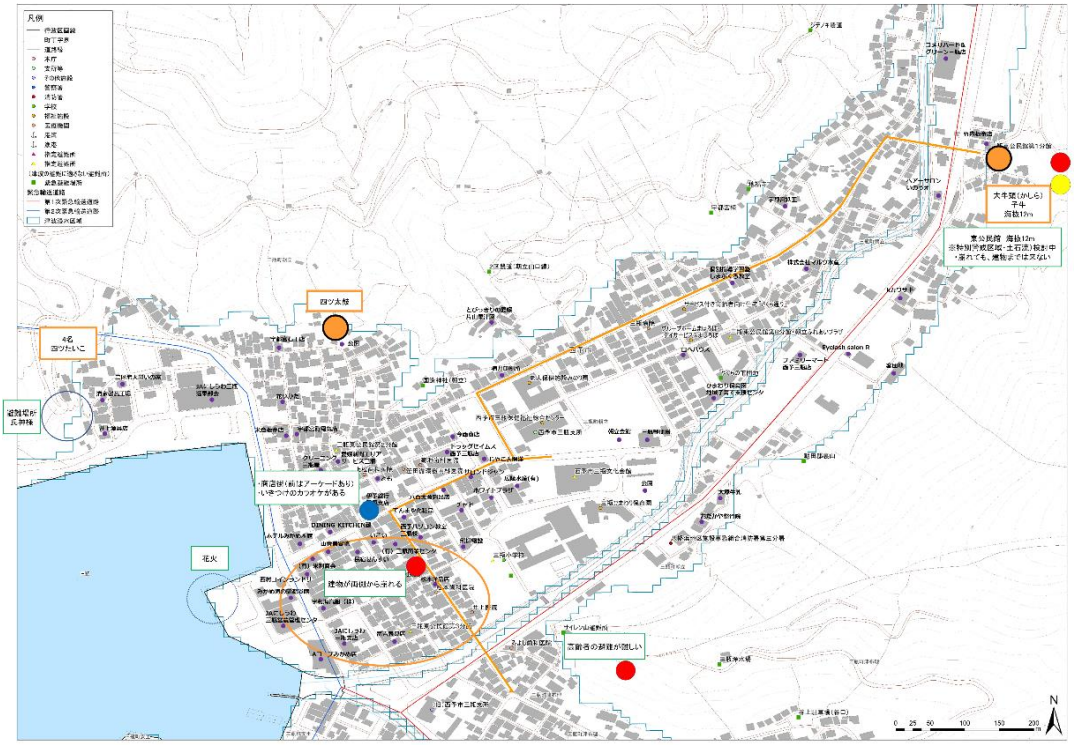


図 18　まちあるきで得られたこと【6 班】(1/2)

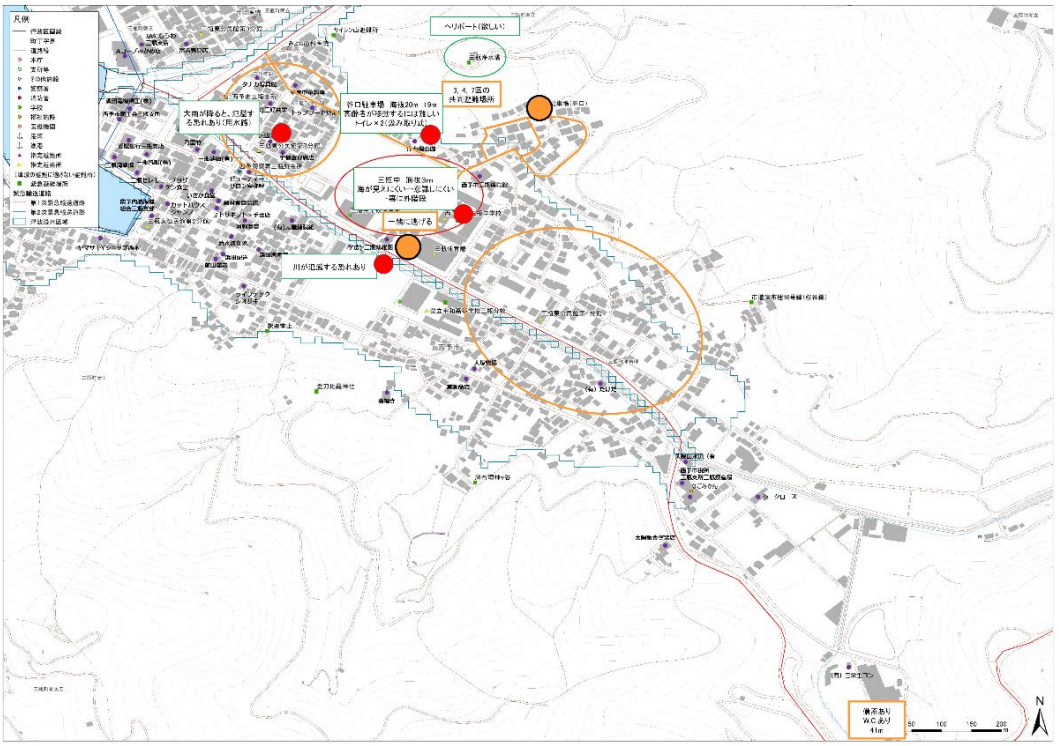


図 19　まちあるきで得られたこと【6 班】(2/2)

図 20　まち歩きの様子

第2節　生活再建シナリオ

復興まちづくりは、住民が住まいの再建を行う場所と密接な関係性があります。そのため、災害の発生から自宅の再建までの時間経過に応じて住民の生活の場が変化することを認識し、地域に住み続けたい、又は安全な場所に移転したい等の住民意向を確認しながら検討を行うことが重要です。

また、住民の住まいの場は、働く場によって大きく左右されます。市街地や集落における生業の復旧・復興の状況等も、住民が生活の場を選択する重要な判断材料にあることから、生業の復旧・復興のシナリオ等も検討する必要があります。

そのうえで、それぞれの市街地や集落にて、住民が生活を取り戻せるよう、恒久的な住宅の確保等を行うためのまちづくりを検討します。

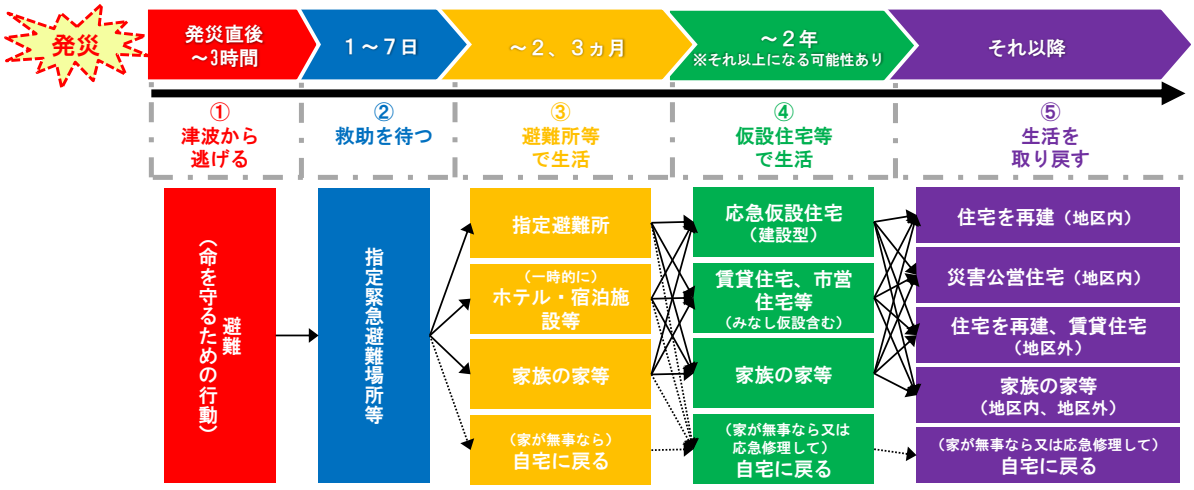


図 21　災害発生から復興までの住民の住まいの選択（一例）

出典：南海トラフ地震えひめ事前復興推進指針

「事前復興まちづくり計画検討 地域ワークショップ」において、命が助かった後の、「避難所等での生活」、「仮設住宅等での生活」、「生活をとりもどす」のそれぞれのフェーズに分けて、生活再建シナリオについて考えました。

復興後（生活をとりもどす）における生活再建意向としては、8 割以上の方が三瓶東地区での生活再建意向があることがわかります。地区外での生活再建意向の方についても、その理由を確認し、どのようなまちであれば住み続けられるかを考えておく必要があります。

また、災害発生後には改めて意向を把握し、その結果を踏まえた復興まちづくりを実施します。

表 1　第 4 回 WS における生活の場に関する意向把握結果

フェーズ	どこで	人数	どんな生活	選んだ理由
避難所等で生活	指定避難所	18人	• 自宅の様子が分かる位置の為、次に取る行動を考えながら生活する • ストレスを感じそう • 質素な生活	• 他の地域に親戚がいないから • 家族や友達がいるから、三瓶が好きだから • ホテルはお金がかかるから
	ホテル・宿泊施設等	1人		
	家族の家等	13人	• 昼は自宅や職場の片づけに行く • 生業を手伝う	• プライバシーが守られるため • いずれ三瓶に戻ってきたいため市内にいたい • 猫と住んでいるから
仮設住宅等で生活	応急仮設住宅（建設型）	12人	• 被災後の生活に少しずつ順応していくようにする • 再建に向けての準備	• 生まれ育った土地で住みたい • お金がかからないから
	賃貸住宅・市営住宅（みなし仮設含む）	8人	• 発災前の日常に戻す努力をする生活 • 生活はなんとかできそう	• 自分の家と呼べるところに住みたい
	家族の家	12人	• 宇和高校の教室を借りて授業を再開 • 仕事に復帰	• なるべく早く授業を再開するため • 家業に早く戻るため
生活をとりもどす	住宅を再建（地区内）	21人	• 仕事を取り戻す • 災害前とほとんど変わらない生活 • 三瓶地区の山間部に家を建てて、農業をする	• 子供が大きくなるまでは離れたくない • 住み慣れているから • 三瓶で何も再建しなければ、忘れられてしまう • 家業の継承
	災害公営住宅（地区内）	5人	• 被害が少なかった三瓶地区で生活	• 住宅を再建したくても資金がない • お金もあまりかからず少し落ち着いた生活ができるから
	住宅を再建、賃貸住宅（地区外）	4人	• 賃貸住宅での生活（宇和か八幡浜） • 拠点を移して生活する	• 地区内にいるより早く生活環境がもとになる • これ以上津波の心配をしたくない

第3節　復興まちづくりの課題

「事前復興まちづくり計画検討 地域ワークショップ」において、復興まちづくりにおいて想定される課題を話し合いました。

その際に得られた意見を、「事前準備」、「情報連絡・コミュニティ」、「避難」、「避難生活」、「復興」、「祭り・伝統」、「産業」に分類してまとめました。

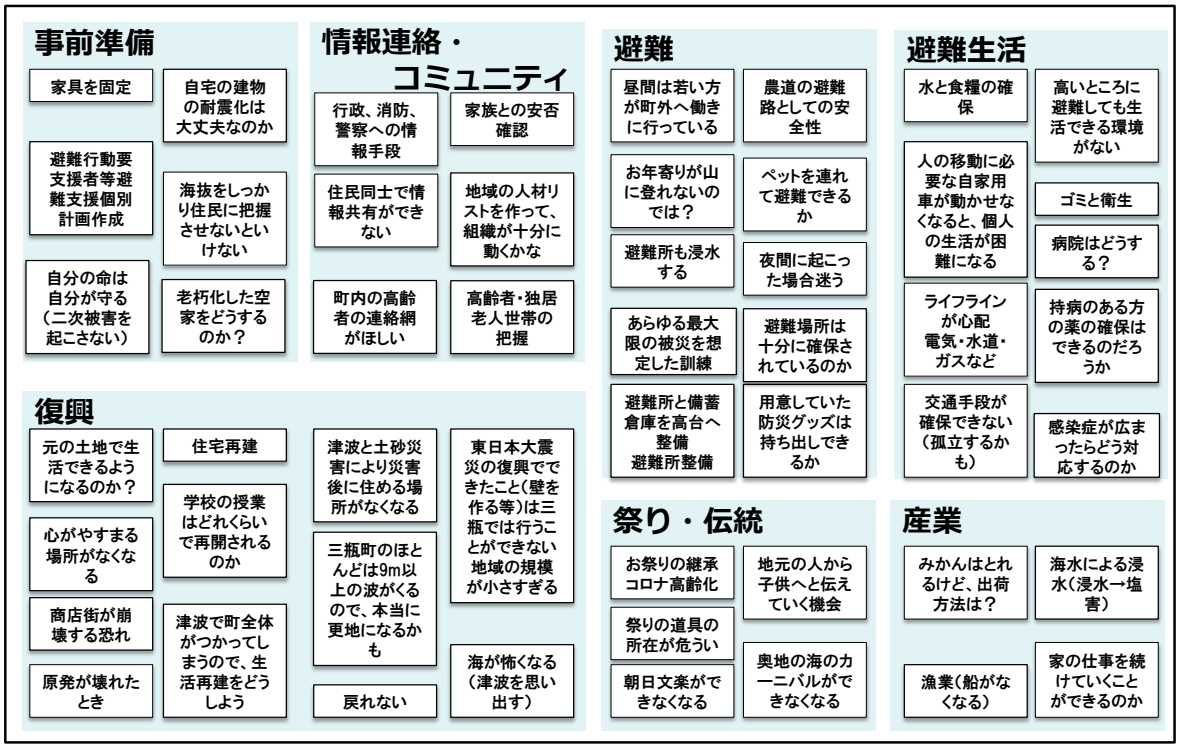


図 22　第 1 回 WS のふりかえり　地域の課題を考える（地域の課題、困りごと）

第4節　復興の目標

三瓶東地区における復興まちづくりを計画的に進めていくため、「まち」、「住まい」、「生業」、「くらし」の４つの分野を設定し、復興の目標を以下のように定めます。

【まち】
次の災害を考慮した安全な市街地や拠点施設、道路ネットワークを形成する

【住まい】
多くの人が住み続けられる住宅地や住宅を整備する

【生業】
三瓶の自然の恵みを活かし、復興を後押しする新たな魅力・生業を創出する

【くらし】
地域の伝統文化やコミュニティを守り、幅広い世代が暮らしやすいまちを実現する

第5節　復興まちづくりの方針

「事前復興まちづくり計画検討 第４回 地域ワークショップ」において、復興後に実現したいくらしについて議論した結果をもとに、復興まちづくりの方針を以下のように定めます。

【まち】

- ○ 市街地の嵩上げ等による浸水対策
- ○ 公共施設（三瓶支所、消防署等）や学校の集約・高台移転
- ○ 避難路となるような農道や林道の整備
- ○ 平常時は遊び場、災害時には避難場所となるような公園等の整備
- ○ 各地区の拠点施設の整備・強化
- ○ 宇和地区や周辺地区へのアクセス路の強化

【住まい】

- ○ 地震・津波に対し安全・安心な住まいの確保
- ○ 多くの人が住み続けられる住宅地の形成

【生業】

- ○ みかん山や畑・豊かな海の維持
- ○ 商店街の復興
- ○ 市場や道の駅などの魅力的な観光交流施設の整備
- ○ 新たな働く場所となる工場や商業施設の誘致

【くらし】

- ○ 地域の人との交流の創出
- ○ 生活サービス施設（医療・福祉・商業施設・飲食店等）へのアクセス確保
- ○ 子どもたちの遊び場や学びの場の早期再開
- ○ 秋祭りや運動会などの伝統文化・イベントの継承

第6節　復興まちづくりイメージ図

第４回・第５回ワークショップを通じて、南海トラフ地震発生後の具体的な復興パターンと居住エリアの設定を行い、復興まちづくりイメージを議論しました。その結果をもとに、復興まちづくりイメージ図を次頁のように示します。

なお、この復興まちづくりイメージ図（案）は、「事前復興まちづくり計画検討 地域ワークショップ」で地域住民が意見交換をして作成したものでありますが、実際の災害後には社会経済状況や被災状況等によりこのまま実現するものではありません。しかしながら、災害後にこの復興まちづくりイメージを踏まえ、より具体的な検討を行うことで、早期復興などの効果が期待されます。

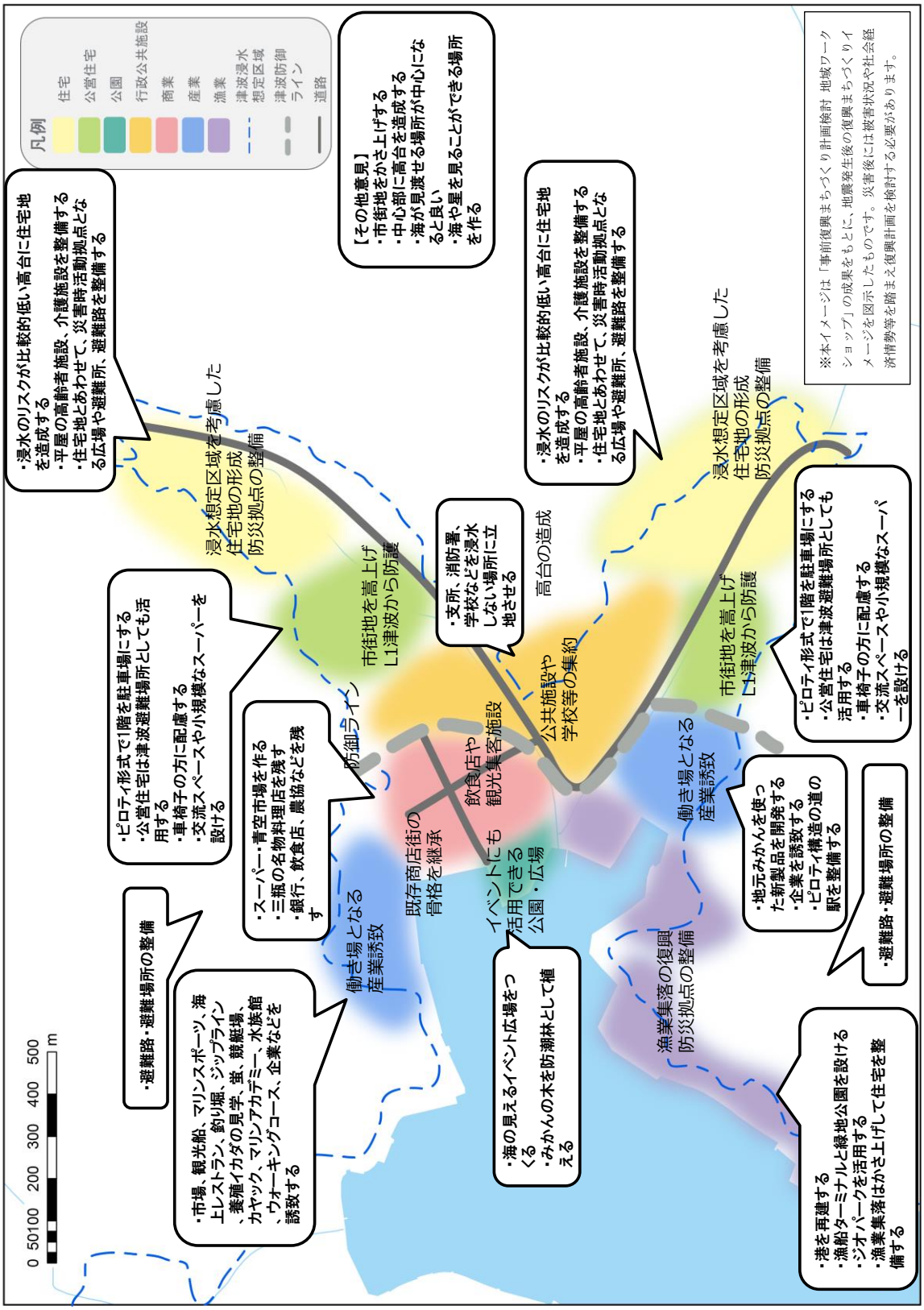


図 23　三瓶東地区 復興まちづくりイメージ（案）

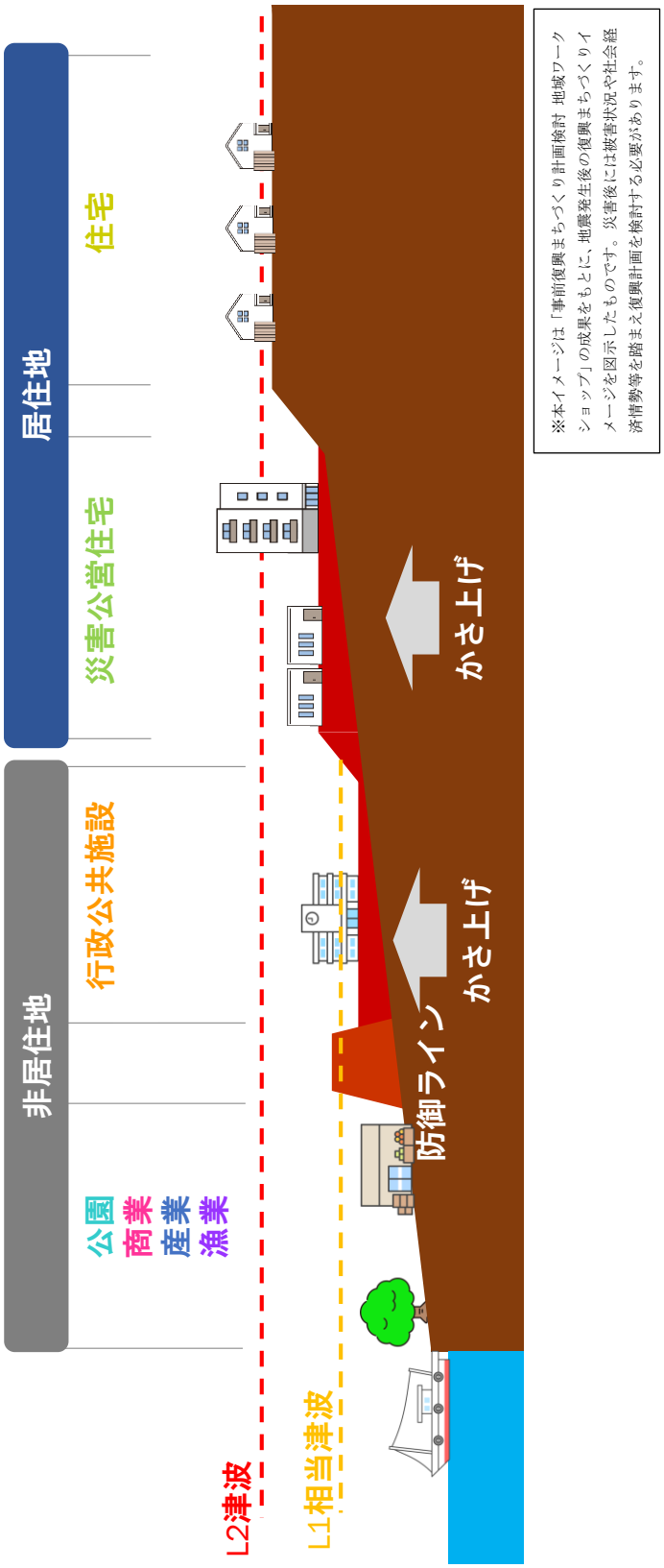


図 エラー! 指定したスタイルは使われていません。-24　三瓶東地区 復興まちづくりイメージ（案）断面イメージ

復興まちづくりイメージの作成において、「事前復興まちづくり計画検討 地域ワークショップ」の中で挙げられた意見と、復興時における留意事項を以下に示します。

ゾーン区分	第4・5回 地域WSでの意見	留意事項
土地利用 （低地・高台）	・市街地を嵩上げする ・中心部に高台を造成する ・海が見渡せる場所が中心になると良い	・交通手段などを確保し低地と高台のまちの分断を避ける必要がある。 ・住民意向などを考慮し、適切な市街地の広さを維持する必要がある。 ・海岸堤防の整備計画などを踏まえて津波シミュレーションを実施し、土地利用を検討する必要がある。 ・海やみかん山の景観に配慮する必要がある。
みどり・景観	・海や星を見ることができる場所を作る ・小学校から見える景色を守る ・みかん山や共同農地・畑を残す	
主要道路	・宇和地域、八幡浜市とのアクセスを復旧させる ・避難路にもなる大きな道路にする	
区画街路・ 細街路	・住宅地の区割を整えて道路を効率よく配置する ・歩行者専用道路をつくる ・農道や山道を整備する	
商業施設	・スーパー、青空市場を作る ・三瓶の名物料理店を残す ・銀行、飲食店、農協などを残す	
公共公益施設	・支所、消防署、学校などを浸水しない場所に立地させる	
住宅	・水のリスクが比較的低い高台に住宅地を造成する ・平屋の高齢者施設、介護施設を整備する ・住宅地とあわせて、災害時活動拠点となる広場や避難所、避難路を整備する	
災害公営住宅	・ピロティ形式で1階を駐車場にする ・公営住宅は津波避難場所としても活用する ・車椅子の方に配慮する ・交流スペースや小規模なスーパーを設ける	
公園・ ｵｰﾌﾟﾝｽﾍﾟｰｽ	・高台に避難場所になる公園やキャンプ場などを整備する ・海の見えるイベント広場をつくる ・みかんの木を防潮林として植える	
産業施設	・市場、観光船、マリンスポーツ、海上レストラン、釣り堀、ジップライン、養殖イカダの見学、蛍、競艇場、カヤック、マリンアカデミー、水族館、ウォーキングコース、企業などを誘致する ・三瓶本館を再建する ・ピロティ構造の道の駅を整備する ・地元みかんを使った新製品を開発する	
漁業	・港を再建する ・漁船ターミナルと緑地公園を設ける ・大きな釣り場や釣りができるキャンプ場、サイクリングロードを整備する ・漁業集落はかさ上げして住宅を整備する ・お年寄りに優しい防災拠点を整備する ・夕日がきれいな場所のため、イベントを実施する ・ジオパークを活用する	
その他	・奥地の海のカーニバルや秋祭りなどのイベントを残す ・公共交通機関や送迎バスを充実させる ・水道タンクのすぐ上にヘリポートを整備する	

第4章　実現に向けた取り組み

第1節　アクションプラン

「事前復興まちづくり計画検討 第 5 回地域ワークショップ」において、復興事前準備として発災前に取り組むべき施策・事業について意見交換を行い、アクションプランとして整理しました。

事前に取り組むべき施策・事業は、「短期的な取組み」、「中長期的な取組み」の 2 つの時間軸で整理し、誰が実施するのかを「私」、「私たち」、「行政」として整理しました。

なお、このアクションプランは、「事前復興まちづくり計画検討 地域ワークショップ」で地域住民が意見交換をして作成したものであり、それぞれ具体的な検討を進める中で地域の状況等により変更される可能性があるため、実施を約束するものではありません。しかしながら地域が一体となって復興事前準備を進めることで、被害軽減や復興の早期化などの効果が期待できます。

（1）まち

短期的な取組み	
①まちの点検と清掃	・災害時に危険な場所の確認 ・水路、河川等の清掃 ・町のみんなで間伐
②防災備蓄の充実	・防災倉庫の中身を充実 ・地区ごとの決まった場所に担架や車イスなどを設置 ・家具固定サービスの周知
③避難の実効性向上	・避難場所・避難ルートの確認 ・避難ルートのマップ作り、管理 ・地域での避難訓練、避難訓練への参加 ・夜間時の避難路の明かりの確保
中長期的な取組み	
①避難所・避難場所の整備	・避難場所の周知 ・平常時からの避難場所の有効活用 ・避難所、避難場所、津波避難タワーの整備（トイレ含む） ・指定避難所の機能向上 ・防災拠点・防災公園の整備 ・情報連絡用の設備を整備 ・雨天時用の設備（テント等） ・農地を公園として整備 ・みかん小屋の活用を検討 ・既存施設の利活用を検討
②避難路の整備	・避難路の整備 ・高台をつなぐ避難路の整備 ・農地農道の地盤調査、農道の整備 ・避難路の照明設置 ・倒壊を防ぐため沿道の空き家の撤去
③広域ネットワークの整備	・ヘリポートの整備 ・宇和への道路整備 ・国道 378 号の改良
④その他	・各地区への防災士配置と防災教育の実施 ・ヘルメットの確保 ・災害記録用のカメラ設置 ・津波軽減のために防波堤を嵩上げ ・避難訓練などのイベントの開催

赤字：私、緑字：私たち、青字：行政

（2）住まい

短期的な取組み	
①家庭内の対策	・家具の固定（補助制度） ・保険の見直し ・家の耐震強化 ・家周囲の明かりの確保（確認） ・家周囲の整理（避難のため） ・非常電源の設置 ・家具の固定をお互いに確認 ・家具固定サービスの周知
②空家の対策	・空き家の寄付、空き家バンクに登録 ・空き家所有者への周知・指導（倒壊の危険）
③その他	・所有施設を津波避難場所として開設 ・家族での話合い ・間伐材でログハウス
中長期的な取組み	
①家庭内の対策	・自宅の耐震化 ・車イスでも移動できる自宅 ・非常用電源の設置 ・非常用電源やバリアフリーに対する補助制度
②空家の対策	・空き家有効活用への政策 ・避難路確保のために空家の撤去
③その他	・自宅ではガスコンロを避ける　避難場所ではガスコンロ ・高台の宅地を造成

赤字：私、緑字：私たち、青字：行政

（3）生業

短期的な取組み	
①日頃の備え	・防災無線が入った時にすぐ動ける準備をしておく ・災害保険への加入 ・仕事に必要なものを別の場所に備蓄・保管
②連携の強化	・取引先と大規模災害時の取り組みを考えておく ・建設業者との連携
③観光・特産物	・三瓶の海へ観光誘致 ・姫塚へ観光誘致 ・ジオパークの有効活用（ネットワークの形成）
中長期的な取組み	
①日頃の備え	・みかん小屋の有効活用 ・企業や生業の BCP 検討 ・みかん小屋の有効活用 ・職場内での訓練 ・企業の BCP 検討の支援
②観光・特産物	・みかんのなえ木の保管 ・三瓶の特産品を使った商品開発 ・ふるさと納税の活用
③その他	・安全な場所への就業場所の確保、人員の誘致 ・高台の産業用地の整備

赤字：私、緑字：私たち、青字：行政

（4）くらし

短期的な取組み	
①備蓄の実施	・非常持ち出し品、備蓄品の用意 ・備蓄品のローリングストック ・石油ストーブを準備しておく ・軽四トラックを確保している（高台に駐車） ・情報収集手段の確保 ・防災グッズの準備 ・ライフライン切断時の備え ・備蓄品のローリングストック
②地域のコミュニケーション	・家庭内の決め事（避難場所等） ・日ごろからのコミュニケーションの実施 ・災害後の声掛け ・家族の健康状態の把握 ・近所、地域との交流による防災意識の向上 ・地域コミュニティの維持 ・防災、減災を考えるワールドカフェ ・学校と地域との交流 ・ワークショップ、説明会、防災イベント等の実施 ・土日等の子どもが参加しやすいイベントを増やす
③訓練・教育	・家族や友達にワークショップの内容を共有 ・訓練の実施（夜間も含む）、訓練参加の呼びかけ ・防災士を活用し自主防災会を活性化 ・小中学生の防災教育 ・防災士や行政による小中高生の防災教育 ・発電機等の動作確認
④高齢者への支援	・要支援者等への声掛け（民生委員） ・個別避難計画の作成 ・要支援者の避難方法 ・高齢者や子どもへの声かけ ・連絡網の作成
⑤その他	・「無事ですカード」の作成 ・三瓶公園までのウォーキングコースの作成

赤字：私、緑字：私たち、青字：行政

中長期的な取組み	
①訓練・教育	・避難訓練の実施、周囲への呼びかけ ・避難訓練の実施（夜間も含む） ・地域防災会と小中学校、保育園との訓練 ・安否確認の訓練 ・防災倉庫にある設備使用の訓練 ・防災士の育成、活躍の場の設置 ・避難訓練 ・被災の模擬体験の機会確保
②高齢者への支援	・通院の送迎ボランティア ・要支援者の避難対策の検討（個別計画、台帳整理など）（支援）
③安全の確保	・支援物資の調達手段の検討 ・小中学校や保育園の病院等の浸水想定区域外への移転 ・原発に対応したシェルター確保 ・分校にかかっている山下橋の強化
④地域のコミュニケーション	・楽しいイベント運営によるコミュニティの維持
⑤その他	・祭具や文化財などの保管場所の見直し ・子どもたちへの支援（遊べる場、安心安全な生活、魅力を感じる） ・公共トイレの増設 ・多様な情報提供 ・防災無線システムの改善

赤字：私、緑字：私たち、青字：行政

第2節　がんばる宣言

「事前復興まちづくり計画検討 第 5 回地域ワークショップ」において、アクションプランの中で、特に実施したい取組みを「がんばる宣言」として整理しました。

平時からのイベント開催やコミュニティ形成、災害時の避難やその後の復旧復興への準備など、幅広い観点で多くの前向きな意見が寄せられました。

「がんばる宣言」　1班

わたしたち　1班は、

『楽しく学ぶためにたくさんイベントに参加』

することを宣言します。

そのため地域では、わたしたちが、

○積極的に周知し、誘い合って参加する

○地域コミュニティを維持する

○子育て世代や高齢者を誘う

といった取り組みを、できる範囲で、地域のみんなでがんばっていきます。

※本宣言は、地域ががんばるための努力目標を示したものであり、
　できなかったからといって、誰かに責任が生じたりするものではありません。
※本宣言は、地域の状況により、内容を変更する場合があります。

令和5年2月

図 25　がんばる宣言【1 班】

「がんばる宣言」　2班

わたしたち　2班は、

『若い力で三瓶の減災力・防災力を高める』

することを宣言します。

そのため地域では、わたしたちが、

○WSで勉強したことを、家族や友人に伝えます

○避難ルートのマップづくり

○高齢者を助ける

といった取り組みを、できる範囲で、地域のみんなでがんばっていきます。

※本宣言は、地域ががんばるための努力目標を示したものであり、
　できなかったからといって、誰かに責任が生じたりするものではありません。
※本宣言は、地域の状況により、内容を変更する場合があります。

令和5年2月

図 26　がんばる宣言【2 班】

「がんばる宣言」　3班

わたしたち　3班は、

『地域・近所との情報共有』

することを宣言します。

そのため地域では、わたしたちが、

○地域内のあいさつ

○WSの内容を伝える

○井戸端会議で住民との交流を増やす

といった取り組みを、できる範囲で、地域のみんなでがんばっていきます。

※本宣言は、地域ががんばるための努力目標を示したものであり、
　できなかったからといって、誰かに責任が生じたりするものではありません。
※本宣言は、地域の状況により、内容を変更する場合があります。

令和5年2月

図 27　がんばる宣言【3 班】

「がんばる宣言」　4班

わたしたち　4班は、

『地域の人全員で避難』

することを宣言します。

そのため地域では、わたしたちが、

○地域の人との交流をする

○逃げる際に自分だけでなく周りの人達と避難

○普段からの地域の方への声かけ

といった取り組みを、できる範囲で、地域のみんなでがんばっていきます。

※本宣言は、地域ががんばるための努力目標を示したものであり、
　できなかったからといって、誰かに責任が生じたりするものではありません。
※本宣言は、地域の状況により、内容を変更する場合があります。

令和5年2月

図 28　がんばる宣言【4 班】

「がんばる宣言」　5班

わたしたち　**5**班は、

『安全なすまいづくりを地域で』

することを宣言します。

そのため地域では、わたしたちが、

○近所の人との交流を深めます

○家具やすまいの危険箇所を点検します

○お互いに助け合い、改善していきます

といった取り組みを、できる範囲で、地域のみんなでがんばっていきます。

※本宣言は、地域ががんばるための努力目標を示したものであり、
　できなかったからといって、誰かに責任が生じたりするものではありません。
※本宣言は、地域の状況により、内容を変更する場合があります。

令和5年2月

図 29　がんばる宣言【5 班】

「がんばる宣言」　6班

わたしたち　**6**班は、

『一人の犠牲を出さずに、災害復興に関わる』

することを宣言します。

そのため地域では、わたしたちが、

○拠点避難場所を整備する・全員を助ける

○個人個人の備えと訓練の参加

○自分の命は自分で守り、災害復興に関わる

といった取り組みを、できる範囲で、地域のみんなでがんばっていきます。

※本宣言は、地域ががんばるための努力目標を示したものであり、
　できなかったからといって、誰かに責任が生じたりするものではありません。
※本宣言は、地域の状況により、内容を変更する場合があります。

令和5年2月

図 30　がんばる宣言【6 班】

第3節　ＰＤＣＡサイクルの運用

事前復興まちづくり計画をよりよいものにするためには、技術革新などの社会経済情勢の変化、三瓶東地区内における人口増減や、海岸堤防等の整備方針の決定、大規模なまちの変容、住民意向などの状況の変化に応じ、地域住民や大学と意見交換等を実施し、計画の見直しを行います。

また、地域が一丸となって、課題解決提案型ワークショップ（地域デザインＷＳ）を行うこと等により、復興事前準備の実現を目指します。

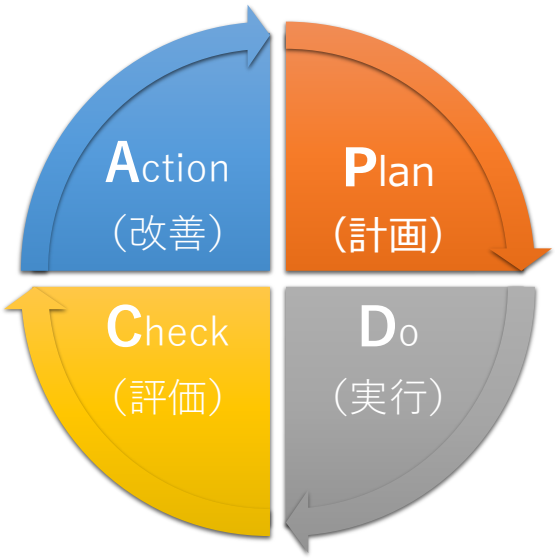


図 31　事前復興まちづくり計画の PDCA サイクルと実施主体

＜参考＞

バーチャル三瓶プロジェクト【※取扱いについて要確認】

愛媛大学の協力のもと、地域の中学生・高校生が中心となって、現在の三瓶のまちを仮想空間上に再現しています。

これらのモデルを活用することで、より具体的で現実味のある防災教育、防災減災対策、復興事前準備、復興まちづくり計画の検討が期待されます。

プロジェクト発表の様子